

目指す学校像	生徒が夢や希望をもって主体的に学び、豊かな自己実現を目指せるよう、教職員がきめ細かく支援する学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善 アクティブラーニングの推進と情報端末の推進 2 安心・安全な学校に向けた環境整備と生徒指導・教育相談体制の充実 学校行事の工夫 3 地域との連携強化 コミュニティースクールの充実に向けた理念、方策の共有と実践 4 一人ひとりが力を発揮し、お互いから学び合い、成長できる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日	令和5年2月3日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・数学ともに全国・市平均と比較し、概ね良好 ○日頃の授業態度は良好、学習にしっかり取り組める生徒が多い。 （課題） ○いわれたことはしっかりできるが、自ら率先して疑問をもち課題を解決する意欲は高くない。	・自ら課題を見つけ解決に向けて努力する場面の設定 ・個別最適化に向けた各教科の授業改善 ・探究化を目指した「STEAMS教育」「SDGs」への取り組みの充実	① 全国学力・学習状況調査の自己採点から、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。 ② スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取り組み状況を基に学習の相談を実施し、生徒が目標をもって学習できるようにする。 ③ アクティブラーニングの推進とフォローアップタイムの充実	① 生徒が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、目標を立て、達成に向けて努力できるようになったか。 ② 学習への目標が持てない生徒に対し学習の相談を実施できたか。 ③ 各教科の授業でアクティブラーニングを意識し、テスト前のフォローアップタイムを実践、改善できたか。	① 各クラス、教科で振り返りを行っている。全国や市の平均と比較し、概ね良好 ② 学活や面談、フォローアップタイムの際などを活用して学習相談を行っている。課題：スタディサプリ等の活用 ③ 1学期のフォローアップタイムは大盛況 質問でき、満足して帰る生徒が多かった 課題：低学力の生徒への支援 保護者との意識の差	B	① 自らの学習状況を把握し、目標を立てて達成に向けて頑張れない生徒への手立てを強化する。 ② 生徒一人ひとりの個別最適な学びを意識し、できない子への手立てを考える。 スタディサプリ等の活用を進める。 ③ 学校全体で、フォローアップタイムの効果を検証し改善方法等を検討する。さらに保護者へ説明し、アクティブラーニングへの理解を求める	・公民館は地域にある施設。人と交流することは大切である。中学生が来所してくれるのはプラスになるので継続してほしい。 ・自治会で在宅の防災訓練を実施しているが、そこに中学生が加わってくればありがたい。高齢者にとっても頼りになる。 ・子供たちの安全のために避難所にもなる体育館前の校庭整備について学校運営協議会から意見書を提出したり、保護者が署名を集め要望してはどうか。	
2	（現状） ○昨年まで不登校だった生徒の中で、新学期より頑張って登校している生徒が複数いる。 ○施設・設備が古いため、不具合が主な原因と考えられる生徒のけがを防ぐためには、定期的な点検と確実な修繕が必要不可欠 （課題） ○コロナ禍における生活の変化や数々のストレスが生徒の心身に与える影響は大きい。家庭も含めた一人ひとりの状況を的確にとらえて適切なタイミングで支援・相談していけるよう体制づくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行う ○情報機器の管理を確実に行う。 ○生徒が自ら危険を予測したり回避したりする力を養う必要がある。	・生徒一人ひとりへの細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実 ・安全な学校生活に主体的に取り組む生徒の育成に向けた学校行事の充実	① 認め励ます指導とけじめある指導の充実 生徒の心に寄り添う指導の充実 ② 様々な方面から、気持ちのよい挨拶を推奨し、人間関係作りを支援する。 ③ いじめの早期発見、早期対応 不登校生徒への早期対応 特別支援教育の充実	① 学級で起こった生徒指導・教育相談的な事案について、担任が一人で抱えこまず学年で対応するため、管理職だけでなく学年会で報告、相談できたか。 ② アンケートや面談等の記録を蓄積し、継続的に把握するとともに、校内部会で、その情報をもとに分析し組織的な支援を行えたか。	① 学年での対応は昨年よりはできつつあるが、まだまだ課題がある。 ② 生徒指導・教育相談会議は毎週実施 一週間で起こったことや変化を共有 課題：数が多すぎて、すべての生徒の対策を検討できない。 ③ いじめの早期発見・早期対応についてはできつつあるが、課題もある。	A	① 学年主任、生徒指導・教育相談主任の意識が高まった。さらに他の全職員の意識を高める。 ② 変化が見えない生徒に目を向け、対応を検討する。 ③ いじめの初期指導をしないでほしいという保護者や生徒を説得し、早期に対応し見守りを強化する。	・いじめは犯罪だという強いメッセージを出してもいいのではないかと。 ・中学生になると、子供が家で話すことは少ないが、保護者が一緒にいじめについて話をするのが大切なのではないかと。 ・中学生になると、親子で話す機会が少ない。親子で参加する保護者会や講演会を開催してほしい。 ・避難経路の危険箇所については、応急処置をしてあるものの、教育委員会で早急に対応すべきである。	
3	（現状） ○昨年、学校運営協議会の準備委員会において、地域の目指す中学生像「つけたい力」を熟議し共有した。 （課題） ○昨年共有した「地域で目指す生徒像」を学校・家庭・地域に広く周知する。 ○それぞれの立場でできることをあらいだし、一つずつ実現に向けて行動していく。 ○地域の小・中共通の課題を保護者に働きかける必要がある。	・目指す生徒の姿を地域全体で共有するためのICTの活用、教育活動の公開 ・生徒の自律につながる取り組みとして「挨拶とボランティア」に取り組む	① HPに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、目指す生徒の姿を広く共有する。 ② 学校行事等について、保護者地域の参観の仕方を工夫し、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。	① 「地域で目指す生徒像」を学校だよりやHPで発信し共有できたか。 ② 生徒の成長への関心を高めるため、学校行事を工夫し、保護者の参観を増やしていく。	① 地域で目指す生徒像は、学校だよりもHPにも掲載済。具体的な姿を写真で掲載 授業参観、体育祭、合唱祭、保護者会等で、感染予防対策を講じながら、保護者の参観を可能にし、多くの参観を得た。面談の際に見られるよう、常に昇降口付近で動画（生徒の様子）を流している。	B	① 学校だよりを地域にも掲示していただく。（公民館・郵便局等） 印刷部数を増やし、自治会から各家に配布していただく。 ② 保護者の参観場面を増やし、参観時や参観後に感想をお聞きする。来校できない方にもYouTubeで視聴できるよう工夫する。	・白中生がゴミ0運動に参加してくれて、地域が喜んでいて。 ・ボランティア活動で一定の成果を上げてきている。ボランティアを通して、一人ひとりが住んでいる地域で役に立っているのがわかり、素晴らしい。今後も必要だと思う。 ・学校・地域・保護者の連携が大切。保護者の連携が薄いと感じた。 ・合唱の様子などYouTubeで見ることができてよい取り組みだと思うぜひ続けてほしい。	
4	（現状） ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法についてエバンジェリストが中心となり職員研修を重ねている。 ○個別最適な学びに迫る方法を検討している。 （課題） ○教科毎にできることを考え、個別最適化に向けたある程度の足並みをそろえた方策を見出し、実行していく。 ○ICTの取り組みに対する教員間の差を小さくし、全体をレベルアップする。	・個別最適な学びを目指す、教職員一人ひとりが力を発揮し、学び合い成長できる研修の実施	① 校内研修計画に従って、各教科部会でICTの活用も含めた個別最適化の方法やフォローアップタイムの方法等について研修を進める。 ② 一人ひとりの教員がICTの活用も含めた授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を1回以上公開し、素晴らしい取組を紹介し、共有する。	① 全ての教員が「個別最適化」の実現を目指し、フォローアップタイムの方法を考えたり、日常的にICTを活用したりする状況になったか。 ② 全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が個別最適化に向けた授業改善が進んだと実感することができたか。	① フォローアップタイムの方法を教科ごとに検討したり、授業の中で、日常的にICTを活用したりする教師が格段に増えた。 課題：その度合いには差がある ② 面談の結果、ほとんどの教員が個別最適化を意識して取り組んでいた。その度合いには差があるため、その差を縮めるのが今後の課題である。	B	① 各教科での取り組みを発信し始めたため、それを継続し、ICTの活用が得意な教員に聞きやすいシステムを構築する。 ② 素晴らしい取り組みをお互いに見合えるシステムを構築する。さらにVTRなどで紹介し研修する。	・学びに向かう力、人間性にも取り組んでいることは素晴らしい。大切なことである。 ・ICTの活用に力を入れる職員の研修のためにICT支援員の来校日を増やしてやってほしい。	